子どもにとって大人(親)は最大の環境

社会福祉法人　大阪誠昭会　寝屋保育園園長　田中啓昭(ひろあき)

読者のみなさん、はじめまして。このコーナーを千葉先生と隔月で担当させていただくことになりました田中啓昭です。私も千葉先生と同じく簡単な自己紹介から始めさせていただきますね。

私は大阪府寝屋川市で保育園の園長をしています。年齢は10歳ぐらい若く見られますが（少し誇張していますが）、体力的には10歳ぐらい上の体力しかない、実年齢41歳の中年のおじさんです。趣味は読書とガーデニング。家族構成は妻と小学生の娘が2人の4人家族です。長女は小学5年生で、最近は「お父さん、脂っこい」とか「お父さん、足臭い」などというビミョーな年齢になってきています。お察しの通り、いっしょにお風呂に入るのも敬遠されつつあります（笑）。一方、保育園では園児たちに友達と隔月で担当させていただくことになりました田中啓昭です。私も千葉先生と同じく簡単な自己紹介から始めさせていただきますね。

私は大阪府寝屋川市で保育園の園長をしています。年齢は10歳ぐらい若く見られますが（少し誇張していますが）、体力的には10歳ぐらい上の体力しかない、実年齢41歳の中年のおじさんです。趣味は読書とガーデニング。家族構成は妻と小学生の娘が2人の4人家族です。長女は小学5年生で、最近は「お父さん、脂っこい」とか「お父さん、足臭い」などというビミョーな年齢になってきています。お察しの通り、いっしょにお風呂に入るのみのある（威厳がないともいいますが）、そんな園長であると自負しています。

生まれも育ちも生粋の大阪ですが、自分ではコテコテの大阪人ではなく、爽やかさも兼ね備えていると信じきっています。兄弟は男3人で、次男坊。兄とは11分差の一卵性双生児です。高校は男子校だったので、文学部（文学部は女の子が多い）という甘い響きに憧れ、社会福祉学科に進学し、児童福祉を専攻しました。卒業後は民間企業（生命保険会社）に勤務した後、16年前に現在の保育園に入職し、5年前から園長を務めています。

●●●●●

さて、そんな私ですが、ご縁をいただいたこの連載でお伝えしたいコトはたったひとつ。「子どもにとって大人（親）は最大の環境である」ということです。このテーマに基づいて、人とのかかわりを中心にお伝えできればと思っています。どうぞよろしくお願いします！

では今回は、なぜこのようなテーマをみなさんにお伝えしようと思ったのか、お話しさせてください。私が保育園で受ける育児相談の中で一番多いのは、「うちの子、遅くない（発達が遅れていない）ですか？」という内容の質問です。もちろん、比べているのは同年齢の子どもたちと。あるいは育児書の標準的な発達という基準と。そして、標準的な基準と比べて、周りの子どもや育児書と同じぐらいか、それ以上ということが分かると親は安心します。

乳幼児期は「子どもの発達」、学童期は「勉強などの成績」など、周りと比べる対象が時期によって変化していきます。発達は周りと同じぐらいに。勉強は周り以上に。これってよくよく考えてみると、子どもにとってどうなのかというよりは、親自身にとってどうなのか、という意識の方が勝っているのではと感じるのです。

私も親として気持ちは分からないわけではありませんが、もちろん、比べるのは周りではなくその子自身なのです。

昨日に比べてどうだったのか、どうしたのか、どうなったのか。

今までに比べてどうだったのか、どうしたのか、どうなったのか。

今までと比べて成長したことを、がんばったことをいっしょに喜ぶ。

結果も大切ですが、それよりもプロセスを認め、次へのステップへとつなげていくのです。そうすることで、ナンバーワンではなく、オンリーワンの子どもが育つのではないかと思うのです。子育ては、子どもとしっかりと向き合うことが大切です。そう、世界にその子はたった一人しかいないのですから。

●●●●●

もちろん、ここまでの話は、「分かっているんだけど…」とか「そんなの理想だよ」などといった声が聞こえてくるほど、理想に近い話かもしれません。しかし、周りと比べるだけでは本当にダメなのです。親が少しずつでも子どもと向き合うことを意識し、周りと比べる回数が減っていくことで、少しずつ子どもが変わっていき、きっと自分に自信を持つことができるようになってくるはずです。

子どもと向きあっていく中で、失敗だと思うこともたくさん経験するでしょう。でも、あきらめてはいけません。子育ては答えがひとつしかないわけじゃないのですから。そう、子育てに正解はないのです！

偉そうなことをいっている私も失敗の連続です。でも、私は子どもと向き合い、いっしょに楽しんだり、悲しんだりしていく中で悩むこともありますが、そうすることが子どもだけでなく自分自身も成長させてくれていると感じています。

「子どもにとって大人（親）は最大の環境である」。その言葉を胸に子どもと向き合う毎日を送っていくことで、子どもにとって、そして、みなさんにとっても輝ける未来がきっとすぐそこで待ち構えているのだと信じています。